

16 年度 Q2 決算説明会 質疑応答要約

- Q) 事業セグメント利益の通期業績予想を 50 億円上方修正しているが、上期の事業セグメント利益は社内計画に対してどれくらい上振れたのか？
- A) 上期では、全社で約 80 億程度の上振れだった。そのうち、P&S 事業の上振れが約 70 億程度あった。
- Q) 下期だけを見ると、P&S 事業は減収減益となり、大幅増益だった上期に比べると弱く見えるが、市場環境など含め、どう考えればよいのか？
- A) 市場環境については、下期にかけても特に大きな変化は起きないのではないかと考えている。利益計画は上期実績に比べると少し保守的かもしれない。ただ、上期は、競争環境が比較的緩やかで、販売コストが想定ほどかからなかったことに加え、消耗品も堅調だった。また、在庫コントロールが順調だったことで、連結上の未実現利益の影響が利益側に出た。為替も、上期に比べると、下期の方が円高になる前提としている。これらのことを踏まえたうえで、下期の利益計画を組み立てている。
- Q) 産業機器について、中国の IT 関連企業からのスポット受注は Q2 にもあったのか？
- A) IT 関連の受注は、以前のように大型の案件は無くなったが、中国顧客からのスポット受注は今でもある。ただ、これは本当に予測が難しく、今後どうなるかは見通しが立てにくい。一方、自動車・二輪車系は安定しており、引き続き伸ばしていく方針。
- Q) N&C の構造改革とはどのようなアクションなのか？ また今後の収益への影響について教えてほしい。
- A) 基本的に人件費の削減によるもの。また、N&C 事業に関連する新規事業についても、今後の見込みが薄いものはプロジェクトをやめてコストカットしている。これらの効果により、年間では 10 億円程度の費用削減ができると考えている。
- Q) ドミノ事業について、ブラザーの中国工場に一部の製品の生産を移管したとのことだが、開発や販売などを含め、今後のシナジー実現に関しての時間軸についてアップデートをしてほしい
- A) ドミノ事業については、中期 3 年戦略「CS B2018」のゴールである 18 年度ではなく、2020 年ころまでの 5 年間のスパンで相乗効果を上げていきたいと思っている。ドミノは産業用領域でビジネスを行っている企業なので、ブラザーの他の事業に比べると思ったよりも時間がかかるということは認めざるをえない。少し長い目で見ただけだとありがたいと思っている。

以上